

厚労省「待機児ゼロ作戦」の偽装と脅かされる「保育の質」

「景気は底を打った」と言われても雇用情勢に改善は無い。家計の収入減など経済的理由から共働き世帯が増加している事などを受けて、全国的に認可保育園への入所を希望しながら入れない「待機児童」が急増。厚生労働省の調べでは、全国で対前年比9%増の「4万人」（昨年10月現在）を超えたとされ、神奈川県でも4月時点で最多の「3245人」、藤沢市も急増地域として「144人（昨年度38人）」と報じられたのだが、それでもこの数字は、純粋に公立や法人立の認可保育園に入りたいと希望を出している児童数ではなく、「潜在的な待機児童」はもっとずっと多いのである。

厚労省は2001年に「待機児ゼロ作戦」による受け入れ児童数の拡大を進めたが、一方では「待機児童」の定義変更が行われ、特定の保育所だけを希望して待機している場合、認可保育所へ希望しても入れずに自治体の補助を受ける認定保育施設等に入っている場合も除外されることになり、また、求職中の場合もカウントされず、入れた園が家からも職場からも遠く転園を希望していても、これらは現在の国の「待機児童」定義には含まれないのである。ちなみに、藤沢市の場合、～を含めた「潜在的な待機児数」をカウントすると今年度当初で402名となり、昨年同期の319名を大きく上回っているとされているのだが実態は十分に把握されていない。

国による実態を無視した数合わせは、とりわけ小泉政権下で進められた規制緩和等によって「保育の質」の面でも様々な問題を招いている。厚労省は2008年に「新待機児ゼロ作戦」として、今後10年間で保育所などの受け入れ児童数を100万人増やすなどの目標を設定。働きながら子育てをしたい親の希望をかなえるため、保育サービスを「質、量ともに強化する」としたが、あくまでも「待機児童」の定義は変えないままなので、本質的な待機児童数の把握すら出来ないのが現状であり、国の補助や交付金に頼る自治体も国に準じた「待機児童解消」策になりがちなのである。

藤沢市においても「待機児童」対策が現場に即したものであるのかどうか問われているのだが、市長の「公立保育園の民営化ありき」の対応に不安が募る6月市議会となった。

▼「民営化ありき」で保育の質、市の責任はどうなるの

海老根市長の「マニフェスト」は、『認可保育園のさらなる充実として、民間活力を活用した運営及び教育カリキュラムの充実を図るために、社会福祉法人による保育所新設と並行して、公立保育園の民営化を含めたあり方を検討』としている。また、「保育所整備計画（ガイドライン）案」で、右表■のような保育所の運営費、建設費についての比較を公表。民営化をすれば安上がりで経費削減できる分、受け入れ「待機児」数を拡大できるという考えであるが、本市においても「待機児」の定義は曖昧である。

官民比較については、「三位一体改革」の中で2004年度から公立保育所の運営費が一般財源化された影響で1のような差が生じたとしている。また、同じ年から公立保育所の建設に対する国庫の助成が無くなったために2のような差は埋めがなくなった。

これらは国による「民間市場への保育行政の解放」として規制緩和を進めるもので、民間保育施設で公立保育所と同等以上のサービス、保育の質が確保されるのであれば良いのだが、現状でさえ、自治体が無償でいる保育サービスを担ってもらっている法人立の認可保育園では少ない予算をやり繰りしているのが実情で、ここに、民営化の受け皿として公立保育園を移管さえすれば良いという「民営化ありき」の発想では、ますます「保育の質」を脅かすことになりかねない。

法人立保育園で抱える課題を行政の責任で解決することが優先されるべきなのだが、例えば、●にある保育士の労働環境などは「保育の質」を考える上で無視できないはずだがこれらは原田トモコ市議の質問によって明らかにされるまで、ガイドライン等には示されなかった課題だ。

1. 潜在的待機児童の実情（所得階層等）の把握と対策
2. 認可外保育入所児に対して認可保育園入所料との差額全額補償
3. 法人立の認可保育園における労働環境向上のための市の補助拡充
4. 「第三者評価機関」によらない市の責任による保育の質確保・向上
5. 保育ママの活用は2歳児以下を中心に

昨年度の場合、差額を全額市が補助すると3132万円の負担となるが、ちなみに市長と副市長一人一期分の退職金を返上すれば賄える金額である。



原田トモ子市議の提案

衆院選マニフェストに思う

少子化対策で「バラマキ」を競うなかれ、格差是正に努めよ。

自民党のマニフェストに、少子化対策の目玉として幼稚園や保育所にかかる費用の無償化が盛り込まれたのは民主党への対抗と伝えられている。

すでに民主党は中学卒業まで月2万6千円を支給する「子ども手当」創設を掲げ、来年度からの半額実施をマニフェストに明記したが、これについて所得制限は無し。高校無償化も追加されたが同様に所得制限についての言及は無い。社民党発表のマニフェストでも保育無料化、高校無償化が明記されたらしいのだが、気なるのは、やはり財源問題。

民主党は、財源は徹底した無駄の排除や特別会計の「埋蔵金」活用で捻出するとしており、それで今後も消費税アップ、年金・医療保険料増額等の大衆増税が不要のままであれば良いのだが・・・どこまで官僚の既得権にメスを入れられるか期待はしつつも、所得制限無しでこれらの生活関連の補助を全世帯対象に行うのには疑問が残る。

裏面にて触れたように、所得に応じた累進性の効いた税制が前提として必要なのであり、それが成立していない以上、相対的に乳幼児世帯に高額所得者は少ないとは言え、累進制で相応の負担を求めることは必要であり、それを体現する形で藤沢市の認可保育所への保育料は所得に応じた15段階に設定されているわけだ。ところが、残念なことに認可保育園を希望していても入れなかった世帯が無認可の保育所に入れざるを得ないとなると、所得に関係なく一律高額負担となるのが現在の藤沢市政の問題。

こうした格差を是正するきめ細やかな対応が最も緊急性のある部分であり、さらに保育全体への投資として、保育士の待遇改善に優先的に回すべきであろう。

格差社会の是正の必要が、あれほど語られてきたと思ったのだが、実際の是正にどこまで国や自治体は腰を上げたのだろうか。

藤沢市政の中での議論を聞いていても、その自覚が余りに乏しいし、今回の選挙でも「バラマキ」が競われることが無いように願いたい。

4月児童数推移	2005	2006	2007	2008	2009
認可保育所申込み数	931	1028	1118	1160	1368
増加率（対前年度）%		10.42	8.75	3.76	17.93
入所児			817	841	966
「待機児」数	41	24	30	38	144
潜在的待機児数			301	319	402

藤沢市には、公立16園、法人立19園と分園2園の計35の認可保育所があり、昨年4月で4042人が入所しているが、保育料は所得に応じた15区分に統一され、例えば三歳以上児であれば最高所得区分の世帯でも月額32600円となる。

上図にあるように毎年の入所申込みに追いつかず、その受け皿として認可外保育施設などが存在しているが、こちらは所得に関係なく一律に月額5～6万円となり、市の要件を満たせば一律月額1万円の補助が出るが、保育環境においてもその差は著しい。



保育園巡りはしてみても・・・（某保育園にて）

現在の原田家の場合がそうなのだが、市の担当課へ行って申し込みをしたが、例えば、パート程度に働いていて、もう少し勤務時間を増やしたいと考えていても、恐らく「待機」の優先順位で相当に厳しい状況となる。

となると、5～6万円/月もする認可外保育園に入れなければならない。差は歴然なのだが、それでも認可外にでも入れればよしとされる扱いは理解出来ない。

そして、そこに入れたら、その時点で「待機児童」でなくなるのだ。

認可保育園の比較	公立保育所	法人立保育所
■ 保育所の運営費（年/児童一人）	約150万円	約120万円
うち市費負担/児童一人	約120万円	約53万円
■ 保育所建設費（備品込）	約4.2億円	約4.2億円
市の負担割合	約4.2億円	約1.68億円（40%）
● 保育士平均年齢	40.7歳	30歳
平均月額給料	33万7千円	19万7千円
平均勤続年数	19年	6年

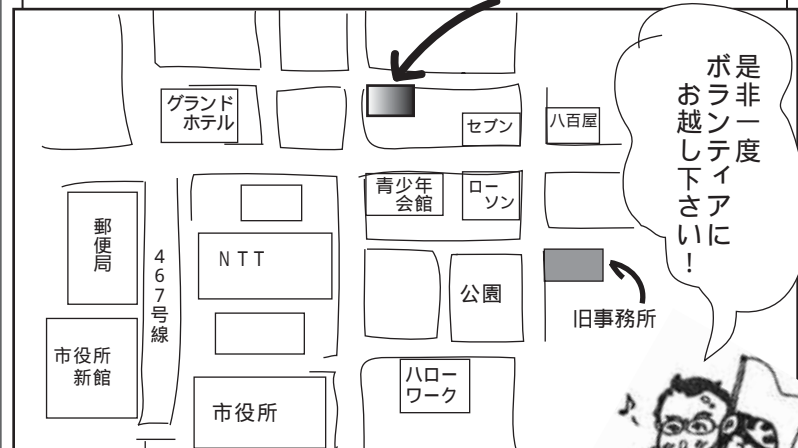
▼「第三者評価機関」では民営化の課題をクリアできない。

市のガイドラインは、『公立及び法人立の保育所を対象に、第三者評価機関による保育の評価を実施し、保育の質の確保を計る指針にしていします。』とある。しかし、既に行われている評価機関の手法は、そのほとんどが施設に対して日誌等の文書による提出を求めた項目をわずか一日程度、現場で確認するだけとなっており、保育士の労働環境の公開が無いだけでなく、月に何日程度外遊びに出ているか？といった子供目線の項目も無く、市が第三者機関やそれで判断させられる保護者に責任を丸投げする危うさがある。

あくまで市が保育の提供、量と質においても責任を負う姿勢が貫かれなければならない。

政権チェンジ！ボランティア・賛同金（-10千円）募集！

原田トモコ・タケル新事務所（8月より移転しました）
〒251-0054 藤沢市朝日町13-16朝日マンション305



是非ボランティアにお越し下さい！

振込先
▼ 横浜銀行 藤沢支店 普通1330689
原田タケル
▼ 郵便振替 00240-3-95535
原田タケルを応援する会
「賛同金」と明記下さい。



当ニュースをご近所に配布下さる方を募集しています！